

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

令和6年度 技術情報第20号（水稻のスクミリンゴガイ）について（送付）

水稻のスクミリンゴガイについて、下記のとおり取りまとめましたので、周知およびご指導をよろしくお願いいたします。



なお、本情報は、病害虫防除所ホームページ（<https://www.pref.kagoshima.jp/ag13/kiad/boujoshou/index.html>）にも掲載しています。

令和6年度 技術情報第20号

令和6年度の早期および普通期水稻では、スクミリンゴガイによる被害が拡大しています。冬季対策は、スクミリンゴガイの越冬量を減らす重要な防除技術です。

現在、スクミリンゴガイは活動を停止している時期であることから、下記5を実践しましょう。

- 1 対象病害虫 スクミリンゴガイ
- 2 対象作物 早期、普通期水稻

3 発生状況

- (1) 早期水稻では、植付後のスクミリンゴガイの発生面積率は31%（平成23%、前年38%）で、成貝密度も増加傾向である（図1）。
- (2) 普通期水稻では、植付後の発生ほ場率は77%（平成54%、前年37%）で、過去10年間で最も発生面積率の高い状況である（図1）。
- (3) 過去3年間の12月から2月の平均気温は、令和4年および5年で平成より高く推移したことから、成貝の越冬量が増加したと考えられる（図2）。

4 スクミリンゴガイの越冬について

スクミリンゴガイは14℃以下になると活動を停止し、水田や水路で土中に潜って越冬する。翌春、気温が上昇し、水田に水が張られると越冬個体が活動を開始し、田植え直後にイネを食害する。

5 防除対策

(1) 冬期耕うん

スクミリンゴガイを物理的に破碎し、越冬量を減らすため、土壌が乾燥して硬い厳冬期（1～2月）に耕うんを行う。防除の際は、トラクターの走行速度を遅くし、ロータリーの回転を速くすることで土壌が細かく砕かれ、破碎効果が高まる。また、厳冬期に行うことで、貝を寒風にさらし、殺貝効果を高める。

(2) 水路の泥上げ

スクミリンゴガイは寒さに弱い（0℃環境下の場合、20～25日で死亡）ため、厳冬期（1～2月）に水路の泥上げを行い、寒風にさらすことで越冬量を減らすことができる。また、水路の泥上げは越冬場所をなくすと同時に雑草が取り除かれることで、翌年の餌をなくすことにもつながる。局所的でなく、地区全体で取り組むと効果が高まる。なお、掘り上げた泥は、未発生ほ場に持ち込まないように注意する。

(3) ほ場の均平化

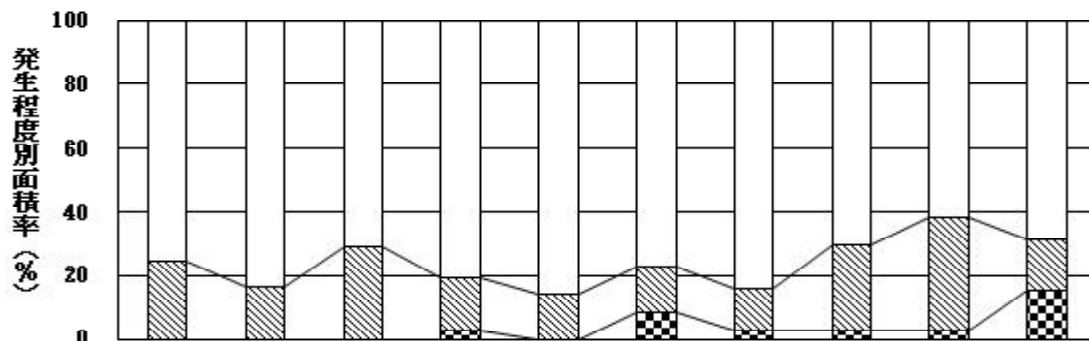
スクミリンゴガイは水中でないと摂食できず、水深が浅いと活動が制限される。一方、凹凸があるほ場では、田面の深いところで貝が活動しやすく集中的に食害が生じる。ほ場の傾斜や凹凸をなくすため、ほ場の均平化を行う。

6 留意事項

- (1) 作業後の農業機械に本種が付着し移動することで、発生範囲が拡大するおそれがある。作業を行うほ場の順番を考慮するとともに、農業機械を移動させる際は泥をしっかりと洗い落とす。また、今年スクミリングガイの被害が見られたほ場では、移植期の農薬散布など他の防除技術との組み合わせを検討する。
- (2) スクミリングガイの防除対策については、農林水産省が公開するマニュアル等 (<https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/siryu2/sukumi/sukumi.html>) (令和6年4月改訂) を参考にする。

7 参考データ

早期水稲



普通期水稲

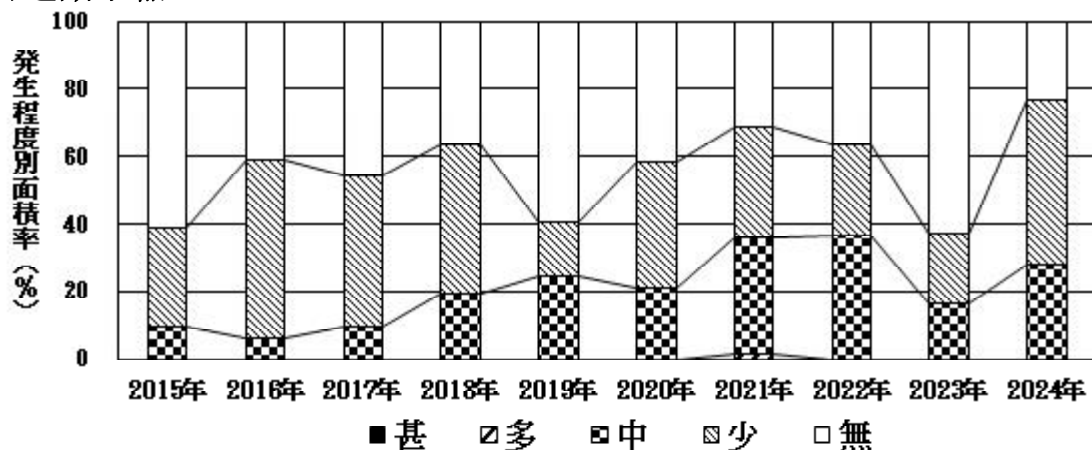


図1 早期、普通期水稲でのスクミリングガイの発生程度別面積率の推移

* 貝の密度判定基準：1 m²あたりの殻高2 cm以上の貝密度を

無：0，少：0.1以下，中：0.2～3.0，多：3.1～7.0，甚：7.1以上の基準で調査し、程度別発生面積率を算出した。調査時期：早期水稲4月下旬，普通期水稲6月下旬から7月上旬

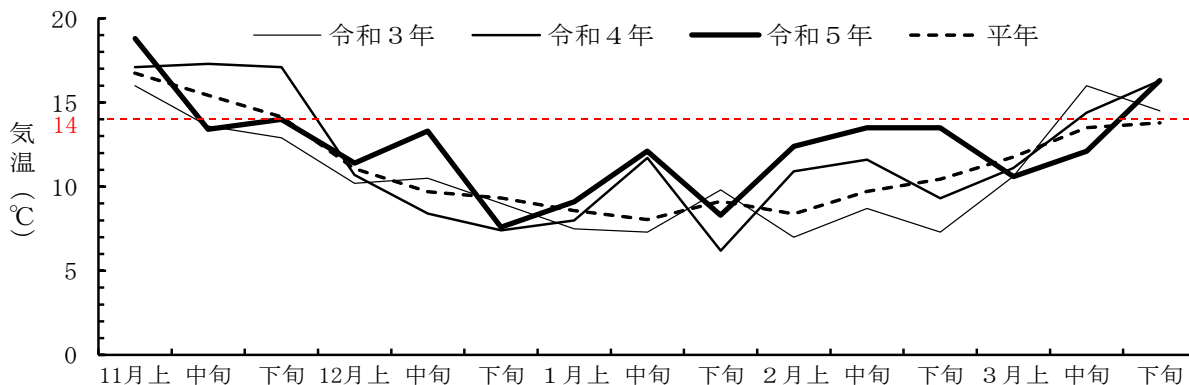


図2 R3年からR5年の11月～3月での平均気温の推移 (鹿児島地方気象台 観測点：加世田)

* --- : 14°C (スクミリングガイが活動停止する温度を示す)